



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

IPPにおけるグローバル化に対する 取り組みと今後の課題

川崎 恭治
一橋大学 国際・公共政策大学院長

IPP10周年記念シンポジウム・同窓会
2014年11月30日 如水会館



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

はじめに代えて



INLA
INTERNATIONAL NUCLEAR
LAW ASSOCIATION

Find



[ABOUT INLA](#)

[MEMBERSHIP](#)

[CONGRESS & EVENTS](#)

[PROCEEDINGS](#)

[WORKING GROUPS](#)



アルゼンチンに行ってみてわかったこと

- アルゼンチンは植民地国家である。
←→アジア・アフリカにおける非植民地化
- アルゼンチンの国民はヨーロッパ系が85%、メスティーソおよびインディヘナなどが15%である。もっともヨーロッパ系アルゼンチン人の占める比率は89.7%から97%と資料によって大きな差があり、近年の研究では実はアルゼンチン国民の56%に先住民の血が流れていることが明らかになっており、自らを白人だと認識しているアルゼンチン人の過半数に、実は先住民の血が流れていることになる。→(見かけ上)ヨーロッパよりヨーロッパ的？

グローバル化の結果としてのアルゼンチン

(1) 人類大移動

アルゼンチンの最初の住民は、紀元前11,000年にベーリング海峡を渡ってアジアからやって来た人々だった。(1万8千年前の旧石器時代の人骨が沖縄で発見されている)

(2) 新世界発見(ヨーロッパ文明の拡大)

16世紀に入ると、1516年にスペインの探検家、フアン・ディアス・デ・ソリスが最初のヨーロッパ人としてこの地を訪れた。(1543年、種子島への鉄砲伝来)

(3) 西洋国家系の拡大

1861年に、ブエノスアイレス国がウルキーサを破り、アルゼンチン連合を併合して国家統一が達成された。(1853年、黒船来航、1854年日米和親条約締結)

比較的最近のグローバル化(地球一体化)の事例

- 人類が地球を外から観察

1961年、ユーリイ・ガガーリン、ボストーク1号で世界初の有人宇宙飛行を成功。「地球は青かった」

1963年、アメリカの思想家、建築家バックミンスター・フラー『宇宙船地球号操縦マニュアル』

1966年、アメリカの経済学者ケネス・E・ボールドリング『来たるべき宇宙船地球号の経済学』

- インターネットによる情報の瞬時の拡散

1995年、Windows95の登場で一般の人にインターネットが急速に広まった。

- 病原体の地球全体への急激な拡散(の危険)

2009年春頃から2010年3月にかけて、A型、H1N1亜型という種類の型のインフルエンザウイルスによるインフルエンザ(流行性感冒)が世界的に流行した。

2014年、エボラ出血熱:各報道によると、リベリアから羽田空港に到着した男性が微熱があるとして、念のためエボラ出血熱感染かどうか検査すると報じている。男性は40代。西アフリカのリベリアに8月から2カ月間滞在し、ベルギーやイギリスを經由して、10月27日夕方羽田空港に到着し発熱の症状を訴えた。

いま日本の大学が直面しているグローバル化とは？

何がグローバル化しているのか？

英語化

数値化→(地球規模での)序列化

1992年～1993年、イタリアのピサ大学で6か月間在外研修をしたが、現地では、イタリア語での国際法の授業を聴講し、大家さんとはイタリア語で話していた。娘も現地の小学校に2か月間だが通っていた。しかしこれは、いま問題となっているグローバル化とは関係ない(単なる2国間での国際化?)。

それはどこから始まっているのか？

植民地国家としてのアメリカ合衆国

植民地国家としての一体性を確保するためには、

- 1) 言語をできるだけ統一する必要があった、
- 2) 多様な民族的背景を持った人々の間で話をまとめるには、「私の祖国ではこうだった」というようなことは説得力を持たず、できるだけ数値化＝客観化する必要があった

つづき

なぜ(いま)広まろうとしているのか？

- 冷戦終結後の、アメリカ合衆国の圧倒的優位？
- 英語標記はアルファベットで、しかもアクセント記号がないので、インターネット等で使いやすい。(仏・伊語でアクセント省く、、、)

結論

- 植民地国家を運営する方法の地球全体への拡散
- いままでのすべてのグローバル化の事例と同様に不可避免的。合わせてゆくしかない。

IPPにおけるこれまでの取り組み

アジア公共政策プログラム

- アジア公共政策プログラムは、平成12年度から、千代田キャンパスの一橋大学大学院国際企業戦略研究科において、英語による公共政策の教育を実施してきました。毎年15名ほどのアジア諸国から留学生の教育を行うと同時に、講義やシンポジウムなどにおいて海外からの研究者を数多く招き、教育面および研究面で実績をあげてきました。
- 平成17年度からは、国際・公共政策大学院に統合されましたが、アジア公共政策プログラムは、引き続き同じ場所で、同じ方針で運営しています。そして、さらにプログラムを発展させ、アジアでの公共政策教育・研究の真の拠点となることを目指していきます。

外交サブプログラム(GG)

- The Foreign Service Sub-program in the Global Governance Program has cooperated with the Japan's Grand Aid for Human Resources Development Scholarship (JDS) provided by the Japan International Cooperation Agency (JICA), and accepted those of Asian countries with practical experiences in the field of foreign services, who have a profound awareness of policy issues concerned, and have enthusiasm to play an active role in various arenas of the international community, through making the most of what they have learnt in Japan.
- It is our pleasure, in this occasion and starting from October 2014, to open the program, not just to the Asian public officers with the JDS scholarship, but also to those foreigners who wish to study international relations and acquire Master degree in Tokyo, by taking courses conducted in English.

ボツコーニ大学との学生交流

ボツコーニ大学との交流実績

派遣	プログラム	性別	派遣期間
1	GG	男	2008/9～2009/2
2	PL	女	2009/2～2009/7
3	PE	男	2009/9～2010/2
4	GG	女	2010/9～2011/2
5	PE	男	2012/9～2013/2
6	GG	男	2013/9～2014/2
7	PE	男	2014/9～2015/2
受入	プログラム	性別	受入期間
1	GG	女	2008/10～2009/3
2	GG	男	2008/10～2009/3
3	GG	男	2009/10～2010/3
4	GG	女	2009/10～2010/3
5	GG	女	2010/10～2011/3
6	GG	男	2010/10～2011/3
7	GG	男	2010/10～2011/3
8	GG	男	2012/10～2013/3
9	GG	女	2012/10～2013/3
10	GG	男	2013/10～2014/3
11	GG	女	2014/4～2014/9

中国の大学との交流講義

- 中国人民大学との交流講義「Contemporary public policy I」を、下記のとおり開催しました。
 - ・講師: Yanfen Huang 中国人民大学公共管理学院・教授
 - ・テーマ: "Public Finance and Financial Reform in China"
 - ・日程: 2014年2月19-20日(一日3コマ程度)
- 2011年10月13日(木)から15日(土)まで上海市の上海財経大学において、本学国際・公共政策大学院(IPP)と上海財経大学公共経済・管理学院との共同講座を実施しました。IPPからの講師団は、高橋滋院長・教授を団長に、副団長として佐藤主光副院長・教授、加えて、山重慎二准教授、國枝繁樹准教授が参加しました。上海財経大学同学院と関連学院の学部生及び院生を対象に、60分授業を1コマとして、最初に本学教員による講義、次いで上海財経大学教員の講義、双方の講義終了後に学生とのQ&A及び討論会という形式で行われ、講義はすべて英語で行なわれました。質疑応答も活発で、予定時間を超えるほどでした。(注意:協定来年春失効)

IPPにおけるこれからの取り組み

英語での発信力の強化

- 英語ホームページにおける情報発信量を増やす
 - 英語での教員プロフィールの紹介
 - 国立3プログラムにおける英語による科目(およびシラバス)の「見える化」
- 英文パンフレットの更新
- 学生による優秀な英語論文への、プルーフ・リーディング代の補助とその公表支援

海外の教育機関との一層の連携

カーネギー・メロン大学オーストラリア校との交流授業、インターンシップの受け入れ、留学生の派遣、、、

Central European University(ハンガリー、ブダペスト)から学生交流の打診あり

バーミンガム大学 Masters in Public Administration (MPA)と、医療・保険政策の分野での連携の可能性あり

マーストリヒト大学 Faculty of Arts and Social Sciences と学生交流協定の締結の方向。将来的に、ダブル・ディグリー制度の導入？
ローマのルイス大学を含めてトライラテラルな制度に発展？

しかし暗雲が・・・

川崎院長 殿

ボッコーニ派遣申請の申込期日が本日(11月28日)までとなっておりますが、17時現在申込が来ておりませんので、その旨ご報告いたします。

緊急告知！（案）

申請書提出期限

平成26年12月11日(木)午後3時に延長

派遣期間

応募期間等は次のとおりになります。

2015年9月から2016年2月までの5ヶ月

派遣人員

1人

面接予定日

平成26年12月12日(金)の昼休みの予定

おわりに代えて

「変わらないためには変わらなければならない」

Giuseppe Tomasi di Lampedusa

Il Gattopardo (1958)『山猫』

ルキノ・ビスコンティによる映画化(1963年)



Se vogliamo che tutto rimanga come è,



bisogna che tutto cambi.

ご清聴ありがとうございました

